



普門寺前の道標と尼崎道

江戸後期の天保4年(1833)に
 建立された道標です。高槻城
 下と富田、茨木を結ぶ「富田街
 道」が折れる普門寺前の辻に立
 ち、各方面とともに、総持寺、
 能勢妙見山、神峯山寺への案
 内も兼ねています。



江戸時代の富田周辺 『高槻市史』より

この辻をまっすぐ南へ下ると「大坂道」。途中西へ曲がると、西
 富田の集落を抜け「尼崎道」となります。天正10年(1582)の山
 崎合戦前日、尼崎から進軍した羽柴秀吉の軍勢は、一旦富田に
 着陣しました。詳細な行軍ルートや着陣地は不明ですが、地元
 では尼崎道から富田に入ったともいわれています。

平成26年3月 高槻市教育委員会

普門寺前の道標と尼崎道

江戸後期の天保4年(1833年)に建立された道標です。高槻城下と富田、
 茨木を結ぶ「富田街道」が折れる普門寺前の辻に立ち、各方面とともに、総
 持寺、能勢妙見山、神峯寺への案内も兼ねています。

この辻をまっすぐ南へ下ると「大坂道」。途中西へ曲がると、西富田の集落
 を抜け「尼崎道(あまがさきみち)」となります。天正10年(1582)の山崎合
 戦前日、尼崎から進軍した羽柴秀吉の軍勢は、一旦富田に着陣しました。詳
 細な行軍ルートや着陣地は不明ですが、地元では尼崎道から富田に入ったと
 もいわれています。

平成26年3月 高槻市教育委員会

道標の背後の参道を奥へ行くと、臨濟宗妙心寺派の寺院・慈雲山普門寺です。

※普門寺から大坂口の中ほどから尼崎道が始まる。

尼崎は、城下町であり、本能寺の変(天正10年)後、羽柴秀吉もこの道を通い
 山崎の戦いに臨んだといわれる。古くから富田と深いかかわりがあった。西垣内
 の直角に曲がる坂道は野面積みの石垣と地藏尊が残り、旧村の景観を色濃く残し
 ている。